

子どもの習い事を見極めるポイントは「3か月待たせる」

子どもが歩き始め、おしゃべりを始める頃になると、早くも気になってくるのが「習い事」です。では、末木佐知さんに、習い事を始める時期や続けるコツについて詳しく教えていただきます。

《 乳幼児期の習い事 》

乳幼児期の習い事は、基本的には幼児教室といわれるものです。この時期の習い事は、子ども「成果」を求めてはいけません。また、隣の子がやっているからと焦るのも禁物。まだまだ、親子で遊んでいたい時期。人とのコミュニケーションが大事な時期なので、親子で遊べる場所に向いて行って、同じ歳の子どもたちと交流するくらいの気持ちで始めましょう。

《 幼稚園に入る頃から、就学前 》

この時期になると、「子どもが将来その道を極めるためには、今から始めないと遅い！」という意識が出てきます。しかし、この時期の子どもが「あれをやりたい」と言ったとしても、過度の期待は禁物です。よく聞いてみると、何を見せても楽しそうで「何でもやりたい」と言うのがこの時期です。好奇心の塊のような子どもは、すべてが楽しく見えるはずです。

《 習い事を始めるときのコツ 》

就学前の習い事を選ぶコツとして、一つあげるとすれば、「3か月待たせる」です。実は、習い事の本質は、本人が興味を持ったことでないと伸びない、続かないということです。3か月たっても気持ちが変わらなければと、待たせたことで子どもはより気持ちが高まっています。そのモチベーションから始めると長続きし、伸びる可能性があります。

《 習い事を続ける上での注意点 》

① 長続きさせる。簡単にやめさせない

子どもは慣れてきたり、飽きたり、自分ができなかつたり、誰かに負けたりなど、いろいろな理由で習い事をやめようとしています。3歳くらいからそんなことを言う知恵が発達してきます。「子どもに知恵がついてちょっと成長したな」と微笑ましく思えるくらいの余裕があるといいですね。

② 成果を期待しない。結果を求めない

アメリカの親は、子どもがスイミングスクールに行くときに、「楽しんで！」と言って送り出し、帰ってきたら「楽しかった？」と聞くといいます。日本の場合は、「今日は検定試験だから頑張ってるね！」と送り出し「合格した？」と聞くという例えがあります。

③ 人と比べない！

何よりも大事なものは、「人と比べない！」です。これから子育てに一生つきまわってくるのが「人と比べてしまう自分」がいることです。子育ての永遠のテーマであり課題です。